

重要無形文化財「首里の織物」の再指定並びに保持者の認定(各個認定)及び「琉球古典音楽」保持者の追加認定(各個認定)についての報告

文化財課

国の文化審議会は、令和5年7月21日(金)に開催された同審議会文化財分科会の審議、議決を経て、重要無形文化財「首里の織物」の指定並びに保持者の認定(各個認定)及び「琉球古典音楽」保持者の追加認定(各個認定)を下記のとおり、文部科学大臣に答申した。なお、認定日については、今後官報に掲載された日付となる。

1 重要無形文化財「首里の織物」の再指定並びに保持者の認定(各個認定)

「首里の織物」は、平成10年6月8日に重要無形文化財に指定されたが、令和4年3月7日、保持者の逝去により指定が解除された。今回、改めて指定するとともに、祝嶺氏をその保持者として認定するものである。

重要無形文化財	保 持 者		
名 称	氏 名	生年月日(年齢)	住 所
(工芸技術の部)			
しゅり おりもの 首里の織物	しゅくみね きょうこ 祝嶺 恭子 氏	昭和12年2月26日 (満86歳)	那覇市

※年齢は令和5年7月21日現在

(1) 保持者の特徴

今回認定しようとする祝嶺恭子氏は、伝統的な首里の織物の制作方法を高度に体得した染織作家として活躍し、卓越した技量を示している。加えて、沖縄の伝統的な染織品の調査も精力的に行い、その成果を自身の創作へと発展的に展開させている。また、同人は、斯界の発展及び後進の指導・育成にも尽力している。

(2) 保持者の概要

同人は、沖縄県那覇市に生まれ、高等学校を卒業後上京し、女子美術大学短期大学部図工科(現：造形学科)に進学した。昭和34年に同校を卒業後、同大学芸術学部美術学科工芸科(現：デザイン・工芸学科工芸専攻)に編入、染織作家・柳悦孝氏の指導の下、幅広い染織技法を学んだ。昭和37年に郷里に戻ると、琉球政府立首里高等学校(現：沖縄県立首里高等学校)染織科に

勤務する傍ら、首里の織物をはじめ、沖縄の伝統的な織物の研究と技術の取得に努め、首里の織物の技法を幅広く修得した。

同人は、国内外に残された沖縄の伝統的な染織品の調査・研究も精力的に行っている。平成4年には、文部省在外研究員として、ベルリン国立民族学博物館所蔵の琉球の染織品の仔細な調査を行った。帰国後、調査結果を基に、衣裳の復元製作を行い、さらに自らの創作へ色彩や意匠を発展的に展開させるなど、首里の織物の技法・表現の研究を重ね、技の錬磨に努めて、伝統的な首里の織物の技法を高度に体得した。

(3) 保持者の略歴

- 昭和34年 女子美術大学短期大学部図工科(現:造形学科)卒業
- 昭和37年 女子美術大学芸術学部美術学科工芸科(現:デザイン・工芸学科工芸専攻)卒業
- 同年 琉球政府立首里高等学校(現:沖縄県立首里高等学校)染織科教諭
- 昭和52年 第1回全国伝統的工芸品展(現:全国伝統的工芸品公募展)内閣総理大臣賞 作品「手編着尺」
ていじまきじやく
- 同年 沖展会員(現在に至る)
- 昭和55年 国画会会員(現在に至る)
- 昭和61年 沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科助教授
(平成2年まで)
- 昭和62年 第21回沖縄タイムス芸術選賞芸術大賞
- 平成2年 沖縄県立芸術大学美術工芸学部デザイン工芸学科教授
(平成14年まで)
- 平成3年 沖縄県指定無形文化財「本場首里の織物」保持者(現在に至る)
- 平成4年 文部省在外研究員としてドイツへ派遣(平成5年まで)
- 平成15年 祝嶺染織研究所開設(現在に至る)
- 平成16年 第24回伝統文化ポーク賞優秀賞
- 平成18年 沖縄県立芸術大学名誉教授(現在に至る)
- 平成27年 平成27年度沖縄県功労者表彰

(4) 備考

同分野の既認定者

(死亡解除)

みやひら はつこ
宮平 初子 氏

(平成10年6月8日指定・認定～令和4年3月7日指定・認定解除)



2 重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者の追加認定(各個認定)

「琉球古典音楽」は、平成12年6月6日に重要無形文化財に指定され、現在、保持者として中村一雄氏なかむらいち おが認定されている。現保持者に加えて、大湾氏おおわんを保持者として追加認定するものである。

重要無形文化財	保 持 者		
名 称	氏 名	生年月日(年齢)	住 所
(芸能の部)			
りゅうきゆう こてんおんがく 琉球古典音楽	おおわん きよゆき 大湾 清之 氏	昭和21年11月19日 (満76歳)	那覇市

※年齢は令和5年7月21日現在

(1) 保持者の特徴

今回認定しようとする大湾清之氏は、伝統的な琉球古典音楽の技法を高度に体現し、積極的な舞台活動を展開して卓越した技量を示している。また、しがい斯界の発展及び後進の指導・育成にも尽力している。

(2) 保持者の概要

同人は、昭和21年に沖縄県中頭郡読谷村に生まれ、野村流三線演奏家の父のもと幼い頃から伝統音楽に親しみ育ち、昭和35年、琉球古典音楽野村流の歌三線を学び始めた。昭和41年に琉球古典音楽安富祖流みやざとはるゆきの歌三線を宮里春行氏に師事した後は、安富祖流演奏家として研鑽に励み、昭和43年に初舞台を務め、昭和54年に教師免許、昭和62年に師範免許を取得した。平成11年には琉球古典音楽安富祖流の伝統的技法を高度に体現しているとして、沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者に認定された。また昭和49年

には大湾清之琉球古典音楽安富祖流研究所を開設し、後継者の育成も開始した。

奥行きのある伸びやかな歌声と、細部まで行き届いた確かな三線演奏技法によって、琉球古典音楽各曲を品位をもって表現する同人の演奏は高く評価されており、国立劇場おきなわ主催公演をはじめとする多くの舞台に出演している。また同人は、琉球古典音楽の理論的研究にも取り組み、研究成果に基づき、安富祖流で伝承が途絶えた「仲節」「長チャンナ節」等の復曲も行っている。

このように優れた演奏活動を展開する一方、平成18年から沖縄県立芸術大学助教授、平成22年からは教授に就任し、広く後進の指導にあたり、斯界の振興発展に貢献している。

以上のように、同人は琉球古典音楽の技法を正しく体得し、かつ、これに精通するとともに、その技法を高度に体現している。

(3) 保持者の略歴

- 昭和35年 父・大湾清之助おおわんせい の すけ氏に師事し、琉球古典音楽野村流を学び始める
- 昭和41年 琉球古典音楽安富祖流の歌三線を宮里春行みやざとほるゆき氏に、笛を大浜長栄おおはまちようえい氏に師事
- 昭和43年 宮里春行琉球古典音楽研究所第10回鑑賞会にて初舞台
- 昭和46年 琉球新報社主催琉球古典芸能コンクール最高賞(笛部門)
- 昭和47年 笛の教師免許取得
- 昭和49年 大湾清之琉球古典音楽安富祖流研究所開設
- 昭和51年 琉球新報社主催琉球古典芸能コンクール優秀賞(三線部門)
- 昭和54年 三線の教師免許取得
- 昭和56年 笛の師範免許取得
- 昭和61年 重要無形文化財「組踊」(総合認定)保持者(現在に至る)
- 昭和62年 三線の師範免許取得
- 平成8年 沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者(平成21年まで)
- 平成11年 沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統音楽安富祖流」保持者(現在に至る)
- 平成14年 『琉球古典音楽の表層一様式と理論一』刊行(大湾清之著、株式会社アドバイザー、平成14年11月3日)
- 平成18年 沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻助教授(平成22年まで)
- 平成21年 重要無形文化財「琉球舞踊」(総合認定)保持者(現在に至る)
- 平成22年 沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻教授(平成24年まで)
- 平成28年 「仲節」を復曲なかぶし
- 平成29年 平成29年度沖縄県文化功労者表彰
- 同 年 「長チャンナ節」を復曲ながぶし

(4) 備考

同分野の既認定者

(死亡解除)

しまぶくろ まさお
島袋 正雄 氏

(平成12年6月6日指定・認定～平成30年4月24日認定解除)

てるき な ちよういち
照喜名 朝一 氏

(平成12年6月6日指定・認定～令和4年9月10日認定解除)

